

長野県が実施している「令和7年度障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業」により、精明学園において、見守りセンサーaams 5台、インカム 5台、タブレット 5台を導入いたしました。

本事業は、障害福祉サービス事業等における業務効率化及び職員の業務負担軽減を推進するため、介護ロボット、ICT 機器導入経費の一部を長野県から補助金として支援していただきました。

1 導入に至った経緯（課題）

- (1) 入所されている利用者様の高齢化に伴い、夜間帯での見回り時にバイタルチェックが必要になっており、職員への身体及び精神的負担が大きくなってきたこと。
- (2) 緊急時に職員がすぐに情報の共有が行いたいこと。
- (3) 夜間帯でのバイタルチェック時に、利用者様を起こしてしまうケースが多く、睡眠の質が悪くなってきていること。

2 これらの課題を改善するために、介護ロボット、ICT 機器の導入を行いました。導入を行った結果、以下の効果が見られました。

- (1) 見守りセンサーaams、タブレットの導入により、日中や夜間の利用者様のバイタルチェック、睡眠状況がタブレットで確認することができるようになりました。そのため、夜間帯での見回り回数の削減につながり、職員への身体及び精神的負担が軽減されました。
- (2) インカムの導入により、離れていても情報共有を円滑に行うことができ、移動時間の削減、緊急対応がスムーズに行えるようになりました。
- (3) タブレットで、日中や夜間の利用者様のバイタルチェック、睡眠状況などをリアルタイムに確認が行えるようになったため、利用者様の睡眠を妨げることが減りました。また、利用者様の状態変化にいち早く気づき対応が行うことができました。

